

**[成果情報名] 高冷地有機栽培における夏どりカボチャ有望品種「くりほまれ」、「恋するマロン」**

**[要約]** 夏どりカボチャの有機栽培では「くりほまれ」が多収性・食味ともに優れている。「恋するマロン」は収量性が低いものの食味において特に優れている。

**[担当]** 総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・野菜作物科・山崎修平

**[分類]** 技術・普及

-----  
**[課題の要請元]** 農業技術課、中北農務事務所

**[背景・ねらい]**

本県では、峡北地域をはじめとして有機栽培や減農薬・減化学肥料栽培などを目指す新規就農者が多い。栽培者からは各品目・品種の有機栽培適性についての情報が強く求められている。そこで、高冷地夏どりカボチャについて、有機栽培に適した品種を選定する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「くりほまれ」は果実重が重く、単位面積当たりの収量が優れているとともに、甘みの評価が高く、食味の点でも優れている（表1、表2）。
2. 「恋するマロン」は収量性では他の品種に劣るが、ほくほく感、甘み、Brix 糖度全てにおいて評価が高く、食味の点で特に優れている（表1、表2）。
3. 病害虫の発生程度に品種間差は認められず、有機 JAS 適合農薬による防除を行うことで栽培可能である（表3）。

**[成果の活用上の留意点]**

1. 病害はできるだけ発生させないように、圃場選定、栽培管理を行い、発生した場合には有機 JAS 適合農薬による初期防除を徹底する。
2. 試験は高冷地野菜・花き振興センター・有機圃場（北杜市明野町・標高 747m）で行った。

**[期待される効果]**

1. 有機栽培において安定した品質・収量が得られ、経営の安定が図られる。
2. 新規参入者の品目、品種選定の目安になる。

## [具体的データ]

表1 夏どりカボチャ各品種の生育および収量性

品種	1株あたり	節間長 <sup>z)</sup>	果実重	収量 <sup>y)</sup>
	着果数(個)	(cm)	(g)	(kg/10a)
くりほまれ	2.6	16.2	1,887	1,935
恋するマロン	2.0	15.4	1,901	1,388
ほっこり133	3.0	13.6	1,657	1,835
くりまさる	2.2	12.1	1,513	1,294
くりゆたか7	2.4	12.7	1,622	1,597
ダークホース	2.4	15.0	1,622	1,560
えびす(対照)	2.8	14.7	1,722	1,883

2017～2018年の試験データを使用して作成

z) 40節目までの平均節間長 y) 1株あたり着果数×1果重×栽植密度

表2 夏どりカボチャ各品種の食味官能調査(2018年)

品種	食味 <sup>z)</sup>		糖度 <sup>y)</sup>
	ほくほく感	甘み	(Brix%)
くりほまれ	2.8	3.5	5.8
恋するマロン	3.6	4.1	7.9
ほっこり133	2.7	2.5	6.9
くりまさる	2.9	3.1	4.8
くりゆたか7	2.8	3.1	5.5
ダークホース	3.2	2.6	5.5
えびす(対照)	—	—	4.9

収穫調査:2018/8/7 食味官能調査:2018/8/30

z) 対照:えびすを「3」とし、ほくほく感:(強5～1弱)、甘み(強5～1弱) n=16

y) 果肉中央部をミキサー破碎後、濾過し上澄液をデジタル糖度計で計測

表3 夏どりカボチャ各品種の病害虫発生程度<sup>z)</sup>(2018年)

品種	うどんこ病	モザイク病	カボチャミバエ
くりほまれ	中	無	無
恋するマロン	中	無	無
ほっこり133	中	無	無
くりまさる	中	無	無
くりゆたか7	中	無	無
ダークホース	中	無	無
えびす(対照)	中	無	無

z) 発生程度は「甚」、「多」、「中」、「少」、「僅」、「無」の6段階評価

## [その他]

研究課題名: 野菜の有機栽培に適した耕種的管理技術の確立

予算区分: 県単(重点化) 研究期間: 2014～2018年度

研究担当者: 山崎修平、島田彬、窪田哲、萩原裕一、赤池一彦、中村知聖